

中高生のための
ブックガイド

梅澤貴典 監修



ネットとAI時代の 情報リテラシー

調べ、考え、発信する力



はじめに

～「調べる・考える・発信する」という三つの力で、未来を切り拓こう～

ネットに多くの情報があふれ、「スマホで検索すれば、たいいていのことは分かる」ように「思えてしまう」のが、皆さんの生きる現代です。また、調べた成果を文章や口頭で発表する時には、生成AIが上手にまとめてくれます。いま、皆さんの多くが探究活動・課題研究にチャレンジしていますが、どのようなテーマに挑むとしても、「ネットと生成AIさえあれば、何とか乗り切れるのではないか？」と思えてしまうのも、無理はありません。

しかし、ぜひ想像をして欲しいのですが、もしも中高生時代に「ネットで調べ、生成AIで整えて発信する」という経験しかできなかったとしたら、卒業後の世界を生きる少し未来の自分は、実社会で出会うさまざまな問題について「自力で解決できる力」を、持っているのでしょうか？そう尋ねられると、少し不安になってしまうかも知れません。

会社などで仕事として挑む課題には、たった一つの「正解」がある訳ではなく、「こうしたら良いのではないか？」という解決策（アイデア）を出して、実際に行動に移してみないと、どんな成果が出るかは分かりません。

また、「ネットにこう書いてあったから」や「生成AIがこう言ったから」という根拠によって判断や行動をした結果については、その情報が間違っている、誰も責任を負ってくれません。そのため、最善の結果となるよう、行動する前にその課題について調べつくして、考え抜いておく必要があるのです。

そんな未来を想像してみると、「あれ？そういえば、ネット以外には調べる方法を知らないな」と気づくかも知れません。さらに「もしも将来のライバル達が、もっとすごい調べ方や学び方を知っていたら…？」と気になったり、さらに「生成AIに考えさせたものって、本当に自分の探究成果と言えるのかな？」「ひょっとしたら、それって誰にでもできることかも？」「だったら、自分がやる意味って何？」と疑問に思えたあなたは、もう探究の「意義」と「面白さ」を掴みかけています。

このようにして考えを進めていくと、「ということは『自分にしかできない探究の成果』は、将来に向けて大きな価値を生むんじゃないかな？」と分かり始めてくるかも知れません。そして、自分のこれまでの「調べ方」や「成果のまとめ方」だけでは、物足りなく思えてくるでしょう。

そうすると、「じゃあ、ちゃんと調べて、自分で考えて、発信する力を育てるには、どうすればいいの？ぜひ知りたい！」という「魂の叫び」が、心の底から聞こえてくるはずです。その問いかけに応えることが、この本の目的です。

この本の監修者である私は、大学図書館司書の経験から、まさにその「調べる・考える・発信する」ための知識と技術について、さまざまな世代に向けた「情報リテラシー教育」を通じて、教えてきました。また、多くの小中高등학교でも「出前授業」をしてきました。情報リテラシーとは、単なる情報の検索技術ではなく、集めた情報の信頼性を評価し、確かな情報を材料にして考え、自分ならではの付加価値あるアイデア（課題の解決策）を生み出し、形ある成果として発信（アウトプット）するための能力です。

「調べる・考える・発信する」。この三つの力が育つと、これから歩む人生で起こるさまざまな問題に、自力で立ち向かえるようになります。そして、学校では「発信する」がゴールだったとしても、実社会で目指すのは、生み出した課題解決のアイデアを「自ら責任をもって実践すること」です。それは少し勇気が要ることかもしれませんが、「確かな情報」を判断の材料にしていれば、自信をもって行動できます。また、周囲の人に「それって本当？大丈夫なの？」と尋ねられても、しっかりした根拠を示すことができれば、相手の納得が得られ、信頼されます。そうすると、協力してくれる人が増えて、ますます自分のアイデアは実現性を高めます。つまり、この三つの力を大きく育てると、自分の夢が叶いやすくなるのです。

今はまだ将来の夢が漠然としているとしても、たとえば「こんなことがやりたいんだけど、どうすれば叶うかな？」と少しでも思っているものがあるならば、ぜひ「実現するためには、何を調べて、どんな知識を得て、どんなアイデア（課題解決策）を生み出せば良いか、今の自分には何が足りないか、この先どう行動する必要があるそうか」と、少しずつ考え始めてみましょう。

そんな実現策を立てることも、探究する価値のあるテーマになります。誰かに決められたのではなく、自分の中から湧き起った目標ならば、きっとワクワクした気持ちで始められるはずです。

学校での探究活動・課題研究に真剣に取り組むことは、将来さまざまな課題を解決するための準備として、貴重な経験になります。この本は、これから無限の可能性を秘めた大海のような未来へ漕ぎ出そうとする中高生の皆さんが、自信をもってそれぞれの目的地に進んでいくための航海図や羅針盤となるように作られました。ぜひ、「調べる・考える・発信する」、そして「実践する」ことによって、夢を叶え、たった一つの自分ならではの人生が「面白くて仕方ない」と言えるように、この本をご活用ください。皆さんの知的冒険が、心の底からワクワクするものとなるよう、応援しています。

2026年3月

梅澤 貴典

目次

1. ネットと生成AIの時代に、なぜ学ぶのか？	1
なぜ学ぶのか？	2
学ぶとどんな良いことがあるか？	4
学ぶ・調べるとは？	6
学校での学びと探究との関係	9
AIがあるのに、なぜ学び探究するのか？	13
2. 信頼できる情報の見きわめ方—メディア・リテラシー	15
情報の流通とメディア・リテラシー	16
ネットの長所と短所を知る	37
フェイク・デマ・印象操作	50
3. 「情報」と「情報化社会」を知る	61
情報化社会・AI時代	62
情報の基礎知識	74
4. AIの可能性と危険性	85
AI（人工知能）とは？	86
生成AI	101
5. 課題解決のための情報活用術	111
知識基盤を作る—自分を取り巻く世界と現代社会を知る	112
学習から研究へ—未知の扉を開くために	116
研究の方法と技術	121
研究の始め方、進め方	121
問いを見つける	127
調査と分析—データリテラシー・統計	131
調査と分析—実験・観察・フィールドワーク	140
課題解決のアイデアを生む	144
発信する—レポート・論文・プレゼン・ディベート	148
発信する—研究倫理・著作権	158

6. 調べ方を知る	165
調べる方法とツール	166
図書館を知り、探究の達人になる	177
7. もっと深く学ぶために	189
教科の壁を破り、「越境」して学ぶには	190
「知の冒険」に誘う本	195
索引	209
書名索引	210
キーワード索引	219

凡 例

1. 本書の内容

本書は、中学生や高校生が情報リテラシーを身につける上で参考になる図書を集め、テーマ別にまとめたブックガイドである。

2. 収録の対象

- (1) 中学生や大学初年次の学生が、自ら調べ、信頼できる情報を見きわめたり、得た情報をもとに考え、まとめて発信する際に参考となるような図書399冊を収録した。
- (2) 国内で刊行された図書から、刊行が新しく比較的手に入りやすいもの、または刊行年が古くても長く読み継がれている有用な図書を中心に収録した。一部、現在品切れ、重版未定等の図書も含まれている。図書館の蔵書や電子版も検索されたい。
- (3) 改訂版、文庫版がある場合や、年刊ものなどの場合は、最新版を収録した。

3. 見出し

- (1) 全体を「ネットと生成AIの時代に、なぜ学ぶのか?」「信頼できる情報の見きわめ方」「情報」と「情報化社会」を知る」「AIの可能性と危険性」「課題解決のための情報活用術」「調べ方を知る」「もっと深く学ぶために」の7つに大別した。
- (2) 上記の区分の下に、各図書の主題によって分類し、26の中見出し・小見出しを立てた。

4. 図書の排列

各見出しの下では、原則書名の五十音順に排列した。

5. 図書の記述

記述の内容および記載の順序は以下の通りである。

『書名—副書名 巻次 各巻書名』版表示(叢書名)

著者表示

内容

目次

出版社 出版年月 ページ数または冊数 大きさ(注記) 定価 ISBN(①で表示) NDC(㊦で表示)

シリーズものは原則巻次順に並べ、巻次と各巻書名などを記載した。但し、本書のテーマと関連が薄い巻は対象外とした。

6. 索引

(1) 書名索引

各参考図書を書名の五十音順に排列し、所在を掲載ページで示した。

(2) キーワード索引

本文の各見出しに関する用語、テーマなどを五十音順に排列し、その見出しと掲載ページを示した。指示先の見出しが複数ある場合は、本文の出現ページの早い順に示した。

7. 典拠・参考資料

各図書の書誌事項は、主にデータベース「BookPlus」に拠ったが、必要に応じてJAPAN/MARC、TRC MARCも参照した。また、掲載にあたっては編集部で記述形式などを改めたものがある。



「なぜ学ぶのか？」という当然の大疑問を、まずは解消して欲しい。自分の興味関心を軸にして知識が増えるほど、ニュースなどで世界を見る解像度が上がり、本も面白く読めて、授業の理解も深まる。学ぶことの面白さに納得できていれば、より前向きに探究を楽しめて、成果も大きくなる。なお、本章に限って、監修者が読んで欲しい順番に本を並べてある。

なぜ学ぶのか？

『なんのために学ぶのか』(SB新書)

池上彰著



内容 「勉強はたいていつまらないもの。でも、学んで損をするということはない」「社会に出てからでもいい。学びの楽しさを知っておけば、その後は一生学び続けることができる」「学ぶことに遅いということはない」…池上彰が初めて語った「学びの喜び」と「学びの意義」。

目次 1章 勉強が好きじゃなくてもいい—おもしろいことが一つあればいい(「明日死ぬことがわかっているけど勉強したい」、高校生の時に知りたかった「対数は役に立つ!」ほか)、2章 どうして勉強しなくちゃ

いけないの?—学校で学ぶということ(上から押しつけても勉強しない、大学で学ぶとはどういうことかほか)、3章 失敗・挫折から学ぶ—こうして「池上彰」ができあがった(なるべく早いうちに挫折を経験しておく、自動車免許の学科試験に落ちたほか)、4章 読書が好き—よい本との出会いは人生の宝だ(『読書について』ショウペンハウエル、『君たちはどう生きるか』吉野源三郎ほか)、5章 生きるとは学び続けること—なぜ、私が学び続けるのか(そもそも人間って、どういうものだろうか、人間がわかっていると、AIも役に立たないほか)

SBクリエイティブ 2020.3.15 227p 18cm 950円(税別)①978-4-8156-0439-4 ㊞002

『なぜ学ぶのか』(小学館YouthBooks)

出口治明著

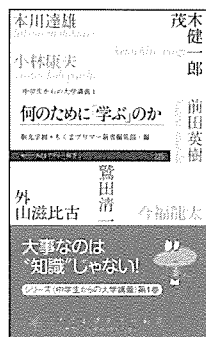
内容 常識を疑うことで世界は発展を続けてきた。学ぶからこそ、常識を知り、考え、それを改革することができる。学ぶからこそ、「社会」や「人」が理解できるようになり、「自分」も見えてくる。そこから人生の選択肢が広がっていく。選択肢が多ければ多いほど、人生は自由で楽しくなる。

目次 第1章 なぜ学ぶのか(「疑う」ことで発展する、学ぶことで自由になれるほか)、第2章 どのように学ぶのか(人・本・旅で賢くなる、本は空間と時空を超えるほか)、第3章 考える力—タテ・ヨコ思考(自分の頭で考える力、データ・ファクト・ロジックで考えるほか)、第4章 「やりたいこと」を見つけるために(20歳までに打ち込むものを見つける、変人たれほか)、第5章 これからの時代を生きる君たちへ(日本はすでに豊かな国ではない、21世紀に活躍するのはどんな人かほか)

小学館 2023.4.2 207p 18cm 900円(税別)①978-4-09-227291-0 ㊞159.7

『何のために「学ぶ」のか—中学生からの大学講義1』(ちくまプリマー新書)

外山滋比古、前田英樹、今福龍太、茂木健一郎、本川達雄ほか著、桐光学園、ちくまプリマー新書編集部編



内容 大事なものは知識じゃない。正解のない問いに直面したときに、考え続けるための知恵である。変化の激しい時代を生きる若い人たちへ、学びの達人たちが語る、心に響くメッセージ。

目次 知ること、考えること(外山滋比古)、独学する心(前田英樹)、学問の殻を破る—世界に向けて自己を開放すること(今福龍太)、脳の上手な使い方(茂木健一郎)、生物学を学ぶ意味(本川達雄)、学ぶことの根拠(小林康夫)、「賢くある」ということ(鷺田清一)

筑摩書房 2015.1.10 202p 18cm 900円(税別)

①978-4-480-68931-3 ㊞002

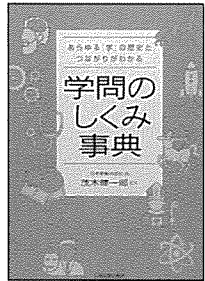


研究を通じて、小さくとも何かを明らかにできた人は、その成果から「もっと知りたいこと」が湧き出てしまうだろう。それは、もはや「歴史」や「政治・経済」「数学」といった教科の枠を超えた、複合的な課題かも知れない。本章では、そのような「越境」に果敢に挑む本や、さらに未知の荒野を開拓する、学びの醍醐味とも言える「知の冒険」に誘う本を紹介する。

教科の壁を破り、「越境」して学ぶには

『学問のしくみ事典—あらゆる「学」の歴史とつながりがわかる』

日本実業出版社編、茂木健一郎監修



内容 あの学問はどんな経緯で生まれたのか？どのように発展してきたのか？どんな人物が支えてきたのか？好奇心を刺激する36の「知」の世界。世の中の「〇〇学」を系譜図と相関図ですっきりまとめたビジュアルガイド！

目次 文化芸術（文学，建築，音楽 ほか），自然科学（物理学，生物学，化学 ほか），社会科学（政治学，経済学，社会学 ほか），人文科学（哲学，歴史学，宗教学 ほか）

日本実業出版社 2016.3.20 293,8p 21cm (A5) 1,600円(税別) ①978-4-534-05368-8
 ㊦002

『カベを壊す思考法』(扶桑社新書)

出口治明著

内容 「一生求められる人」になるための、たった1つ必要な力とは？60歳で前例なしの生保立ち上げに成功し、70歳で教育界に飛び込んだ著者が、「自分の軸」をもつための考え方や振る舞い方を紹介する。

目次 序章 運命は、変わる，第1章 これまでの「成功法則」を捨てよ！，第2章 難問を解決する軸となる「タテ・ヨコ」思考，第3章 自分に必要な情報のつかまえ方，第4章 生き残るためにやるべきこと，第5章 正攻法に勝る解決方法は、ない，第6章 「最後に勝つ」ために

扶桑社 2021.3.5 185p 18cm 800円(税別) ①978-4-594-08733-3 ㊦336

『国境のない生き方—私をつかった本と旅』(小学館新書)

ヤマザキマリ著



内容 地球のあちこちで生きてきた漫画家をつかったのは、たくさんの本と、人との出会いだった！古今東西の名著から知られざる傑作小説まで、著者が人生を共に歩んできた本を縦糸に綴る体験的人生論。

目次 第1章 野性の子（本の虫，「旅する主人公」になりたかった ほか），第2章 ヴィオラ奏者の娘（審美眼を持つことの大切さは『暮らしの手帖』で教わった ほか），第3章 欧州ひとり旅（「自由に生きる」ってどういうこと？，十四歳のヨーロッパひとり旅 ほか），第4章 留学（『フランダーズの犬』暮らし ほか），第5章 出会い（パゾリーニの洗礼 ほか），第6章 SF愛（SFの国，超常現象に胸をときめかせた七〇年代 ほか），第7章 出産（母になったのは，人生最悪の時だった ほか），第8章 帰国後（一〇足のわらじ，移動して生きることをデフォルトに ほか），第9章 シリアにて（『千夜一夜物語』，シリアで暮らしてわかったこと ほか），第10章 一九六〇年代（青春の作家・三島由紀夫，音楽喫茶「ウィーン」と雑誌『ビックリハウス』 ほか），第11章 つながり（『思い出のマーニー』と母，ここではないどこかとつながる ほか），第12章 現住所・地球（気持ち悪い果実 ほか）

小学館 2015.4.6 253p 18cm 940円(税別) ①978-4-09-825215-2 ㊦914.6

『知の越境法—「質問力」を磨く』(光文社新書)

池上彰著

内容 世界で起こる問題を誰もが分かる言葉で解説し、選挙後の政治家への突撃取材でお馴染みの池上彰。その活躍はNHK時代の「左遷」から始まった一。幾多の領域を跨いで学び続ける池上彰が、「越境」の効用と実践法を説く。

目次 第1章 「越境する人間」の時代，第2章 私はこうして越境してきた，第3章 リベラルアーツは越境を誘う，第4章 異境へ、未知の人へ，第5章 「越境」の醍醐味，第6章 越境のための質問力を磨く，終章 越境=左遷論

光文社 2018.6.20 257p 18cm 800円(税別) ①978-4-334-04359-9 ㊦002.7

書名索引

【あ】

アイデア大全—創造力とブレイクスルーを生み出す42のツール	144
アイデアのつくり方	144
アカデミック・スキルズ—AI時代の知的技法入門	121
頭の良い人がやっている「調べ方」究極のコツ	166
新しい、美しい日本の図書館	177
あの人の調べ方ときどき書棚探訪	166
生き抜くためのメディア読解	16
池上彰さんと学ぶみんなのメディアリテラシー 1 メディアの役割とその仕組み	16
池上彰と考える フェイクニュースの見破り方 1 「正しい情報」って、なに?	50
池上彰と考える 未来の社会とデジタル庁 1 デジタルって、何?	63
池上彰と考える 未来の社会とデジタル庁 2 DXが変える世界と日本	64
池上彰と考える 未来の社会とデジタル庁 3 デジタル庁が目指す未来	64
1日1アイデア—1分で読めて、悩みの種が片付いていく	145
5日で学べて一生使える! プレゼンの教科書	148
5日で学べて一生使える! レポート・論文の教科書	148
今すぐ使えるかんたん いちばんやさしい ChatGPT 超入門	101
いまずぐ問題解決したくなる 13歳からのデータ活用大全	131
今解き教室サイエンス 2021 vol.1: ロボット・AI(人工知能)との共存	86
イラストで読む AI 入門	86
インターネットで文献探索 2025年版	167
インタビュー調査法入門—質的調査実習の工夫と実践	140
ウェブと調べるインターネットのなりた	

ち	74
ウソがはびこるネット社会を生き残れ! 1 信頼できる情報をつかみとれ	17
うわさとは何か—ネットで姿容する「最も古いメディア」	50
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 1 AI(人工知能)のきほん	74
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 2 プログラミングのきほん	75
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 3 デジタルリテラシーのきほん	37
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 4 コンピュータのしくみ	75
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 5 ネットワーク・通信のしくみ	75
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 6 情報セキュリティのしくみ	76
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 7 ロボットと生きる世界	62
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 8 IoTで変わる社会	62
AI時代を生き抜くプログラミング的思考が身につくシリーズ 9 ICTが変える未来	63
AI大図鑑—VISUAL BOOK OF THE ARTIFICIAL INTELLIGENCE	87
AIとともに生きる未来 1 知ろう AI というプログラム	87
AIに書けない文章を書く	149
AIにはできない—人工知能研究者が正しく伝える限界と可能性	88
AIにはない「思考力」の身につけ方—ことばの学びはなぜ大切なのか?	13
AIの学校	88

AIの時代を生きる—未来をデザインする創造力と共感力	14
AIの世界へようこそ—未来を変えるあなたへ	89
AIのひみつ—人工知能のしくみと未来のくらし	89
AI白書 2025	90
AIvs.民主主義—高度化する世論操作の深層	90
AIロボット世界のサバイバル 1 生き残り作戦	91
AIは人を好きになる?—科学技術をめぐる15の疑問	76
SNSから心をまもる本—被害者にも加害者にもならないために	37
SNS時代のメディアリテラシー—ウソとホントは見分けられる?	18
SNSにひそむ危険	38
SNSの哲学—リアルとオンラインのあいだ	38
SDGsの時代に探究・研究を進めるガイドブック	122
絵で見る日本の図書館の歴史	178
絵でわかる10才からのAI入門	91
絵と図でよくわかる人工知能—AI時代に役立つ科学知識	92
絵と図でわかるAIと社会—未来をひらく技術とのかかわり方	92
NHKカガクノミカタ 自分だけの「フシギ」を見つけよう!	140
エピソードで学ぶ統計リテラシー	131
教えて! からあげ先生 はじめての生成AI	101
お父さんが教える図書館の使いかた	167
大人を黙らせるインターネットの歩き方	39
おとなもこどもも知りたい生成AIの教室	102
「覚える」と「わかる」—知の仕組みとその可能性	12
「面白い!」を見つける—物事の見え方が変わる発想法	145

親子で学ぶIT社会のしくみ図鑑	65
-----------------	----

【か】

カエル君と学ぶ! 著作権	158
科学の最前線を切りひらく!	116
学問からの手紙—時代に流されない思考	117
学問のしくみ事典—あらゆる「学」の歴史とつながりがわかる	190
学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか	9
カベを壊す思考法	190
考える機械たち—歴史、仕組み、倫理—そして、AIは意思をもつのか?	93
考える力がつく本本、新聞、ネットの読み方、情報整理の「超」入門	9
GIGAスクール時代のネットリテラシー 1 ネットの基本と活用術	39
技術・情報の時間—学校の学びを社会で活かせ!	65
基礎からわかる情報リテラシー—コンピューター・インターネットと付き合い基礎知識	77
基礎からわかる論文の書き方	149
基本を知ってリスク回避	40
旧約聖書を知っていますか	195
京大式おもしろ勉強法	10
教養が身につく最強の読書	112
教養としての生成AI	102
教養としての「地政学」入門	196
ギリシア神話を知っていますか	197
キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2026	77
くらしをべんりにする新・情報化社会の大研究 1 メディアの情報化	66
くらしをべんりにする新・情報化社会の大研究 2 お店の情報化	66
くらしをべんりにする新・情報化社会の大研究 3 交通・観光の情報化	67
くらしをべんりにする新・情報化社会の大研究 4 農業・工業の情報化	67
くらしをべんりにする新・情報化社会の	

キーワード索引

【あ】

IoT	
→ 情報化社会・AI時代	62
→ 情報の基礎知識	74
ICT	
→ 情報化社会・AI時代	62
→ 情報の基礎知識	74
IT社会 → 情報化社会・AI時代	62
アウトプット	
→ 学ぶ・調べるとは?	6
→ 学習から研究へ	116
→ 研究の始め方・進め方	121
→ 発信する—レポート・論文・プレゼン・ディベート	148
アカデミックスキル	
→ 研究の始め方・進め方	121
→ 発信する—レポート・論文・プレゼン・ディベート	148
アカデミック・ライティング → 発信する—レポート・論文・プレゼン・ディベート	148
アプリ	
→ ネットの長所と短所を知る	37
→ 情報化社会・AI時代	62
アルゴリズム	
→ ネットの長所と短所を知る	37
→ 情報の基礎知識	74
→ AI (人工知能) とは?	86
インターネット (技術)	
→ 情報化社会・AI時代	62
→ 情報の基礎知識	74
インターネットとの付き合い方 → ネットの長所と短所を知る	37
インタビュー調査 → 調査と分析—実験・観察・フィールドワーク	140
インフルエンサー → 情報化社会・AI時代	62
ウェブ検索	
→ ネットの長所と短所を知る	37
→ 調べる方法とツール	166
ウェブサイト	
→ 情報の流通とメディア・リテラシー	16

→ ネットの長所と短所を知る	37
うわさ	
→ 情報の流通とメディア・リテラシー	16
→ フェイク・デマ・印象操作	50
AI活用	
→ AI (人工知能) とは?	86
→ 生成AI	101
→ 発信する—レポート・論文・プレゼン・ディベート	148
エコーチェンバー → ネットの長所と短所を知る	37
SNS	
→ 情報の流通とメディア・リテラシー	16
→ ネットの長所と短所を知る	37
SNSトラブル → ネットの長所と短所を知る	37
NDC分類	
→ 調べる方法とツール	166
→ 図書館を知り、探究の達人になる	177
炎上 (ネット)	
→ 情報の流通とメディア・リテラシー	16
→ ネットの長所と短所を知る	37

【か】

学問	
→ 学ぶとどんな良いことがあるか?	4
→ 学習から研究へ	116
→ 教科の壁を破り、「越境」して学ぶには	190
確率 → 調査と分析—データリテラシー・統計	131
課題研究	
→ 研究の始め方・進め方	121
→ 調べる方法とツール	166
→ 図書館を知り、探究の達人になる	177
課題設定 → 問いを見つける	127
学校図書館 → 図書館を知り、探究の達人になる	177
考える力	
→ なぜ学ぶのか?	2
→ 学校での学びと探究との関係	9
→ AIがあるのに、なぜ学び探究するのか?	13

監修者紹介

梅澤 貴典（うめざわ・たかのり）

中央大学職員、都留文科大学非常勤講師

中央大学理工学部図書館において、電子図書館化と学術情報リテラシー教育を7年間担当。働きながら東京大学大学院 教育学研究科大学経営・政策コース修士課程を修了。

最近では、生成 AI の進化を踏まえた探究学習の支援を目指しており、小学生を始め中学生や一般市民・企業人も対象とした、学術情報リテラシー教育による知的生産力・企画立案力の向上策についても研究と実践を続けている。

主著に『ネット情報におぼれない学び方』（岩波ジュニア新書）。

中高生のためのブックガイド

ネットとAI時代の情報リテラシー

—調べ、考え、発信する力—

2026年5月25日 第1刷発行

監 修 / 梅澤貴典

発 行 者 / 山下浩

発 行 / 日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03) 3763-5241 (代表) FAX (03) 3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

組 版 処 理 / 松岡羽 (ハネデザイン)

印刷・製本 / シナノ印刷株式会社

©Nichigai Associates, Inc. 2026

不許複製・禁無断転載 ◀中性紙北越淡クリームキンマリ使用▶

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-3096-6

Printed in Japan, 2026

本書はデジタルデータを有償販売しております。

詳細はお問い合わせください。